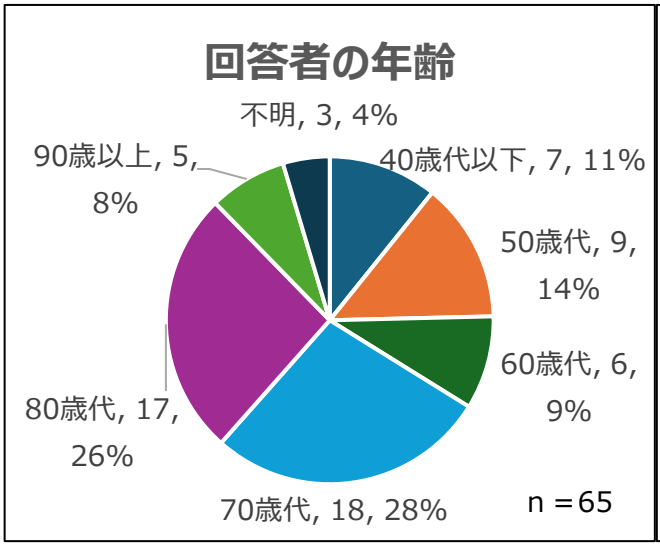
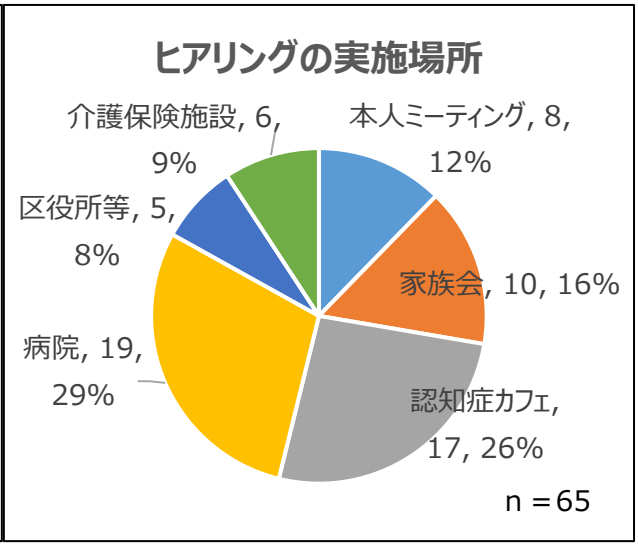
資料 1-1

認知症施策推進計画策定に向けたヒアリング結果について

＊**実施方法**：本人・家族等へのヒアリング
＊**実施場所**：本人ミーティング・家族会・認知症カフェ・介護保険施設・病院・区役所等
＊**実施時期**：令和８年５月～令和８年８月
＊**回 答 数**：65 件（認知症の本人 34 人・家族 31 人）





回答者は 40 歳代から 90 歳以上までの幅広い年代にわたり、本人ミーティング、認知症カフェ、介護保険施設、病院等においてヒアリングを実施。実施にあたっては、各区の認知症地域支援推進員、認知症介護指導者、地域包括支援センター等の関係機関の協力を得て、多様な意見の把握に努めた。

■自由記入欄の記載（メッセージ等）

・「本人ミーティングのような場があることで外出のきっかけが生まれ、人とのつながりを保つことができています。共通の悩みや経験を共有することで安心でき、参加すると気持ちが軽くなります。」― 50 代（大阪府認知症希望大使）
・「話を聞いてくれる人が身近にいることで不安が和らぎます。当事者同士で集まれる機会が増えたらいいなと思います。」― 70 代（認知症の本人）
・「言葉が出てこなくて困ることがありますが、できることは自分でやることが大切。」― 80 代（認知症の本人）
・「若年性認知症の人が安心して暮らせるよう、周りの人に理解を深めてほしい。」― 50 代（認知症の本人）
・「できないことがあっても、それが普通だと思えるようになりました。認知症の人には軽度の方から重度の方まで様々な方がいます。みんなが優しく接してくれるので、安心して過ごしています。」― 60 代（認知症の本人）
・「本人が混乱しているときは、何に困っているのかを確認しながらゆっくり話を聞き、一緒に考えながら解決するようにしています。」― 50 代（家族）
・「本人の様子が気になってから受診までに数年かかりました。診断後は利用できるサービスの情報が少なく、要介護認定の申請等、多くのことで悩みました。分かりやすい情報提供があると良いと思います。」― 70 代（家族）

ヒアリング結果から、相談相手がいない方や交流の場に参加していない方がいる一方で、交流の場の充実を希望する声が多いことが分かった。また、人とのつながりや当事者同士が交流できる場が本人・家族の安心につながっていることがうかがえた。引き続き、本人・家族が気軽に相談できる機会や交流の場の充実、相談先の周知を進め、認知症の本人の意見を施策に反映する取組を推進していく。